

青春スクロール

母校群像記

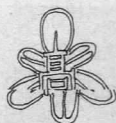
<http://t.asahi.com/dnnn>

自律と自主……「軍艦の街」から精鋭出航

明治以降、「海軍の街」として発展した横須賀。横須賀高校（以下、横高）の前身、旧制横須賀中学からは多くの生徒が海軍兵学校に進み、若くして戦地の海に散った。戦後も海上自衛隊を支えたOBは多い。

旧制中からの移行期に在籍した元防衛大学校教授（海将補）平間洋一（80、52年卒）は、海軍軍人だった父の公職追放で経済的に困窮し、一時は社会主義に傾倒するなど多感な少年だった。校内弁論大会では「反米」演説、社会党左派の国政選挙を

横須賀高校 ⑥



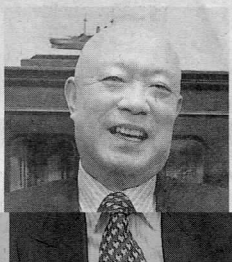
「全国大会の帰り、食べ過ぎて文無しになった」と話す齋藤

手伝った時は「青年よ、銃を取るな」と声を上げた。一方で、宿直室の先生にいたずら電話したり、ドアから黒板ふきを落としたり、やんちゃな面も。「いたずらの限度は知っていたし、先生も生徒を適当にいなしていた。明治的な学風だった」

元統合幕僚長（海将）の齋藤

隆（66、66年卒）は、全国大会で優勝した陸上部の先輩たちの後ろ姿を追い、猛練習に明け暮れた。自身も3年の時、2000年ハードルで県大会優勝。「大で原子力工学を学びたい」と猛勉強もした。疲れたら30分寝てぱっと起き、頭を切り替えてまた机に向かう。その習慣は潜水艦乗りだった時にも役立った。「あれもこれもやらなければ、とパニックにならずに対処するバランス感覚は、横高での生活が原点」と言う。

齋藤の同級生で同じ陸上部だ



現在三笠戦艦保存会理事長を務める荒川

つた元横須賀地方総監（海将）荒川堯一（66、66年卒）は、体育祭での仮装行列が印象に残っている。沖縄戦の悲惨さを表現しようと、仲間と「ひめゆり部隊」の女子学生に扮した。セーラー服にスカート姿、かつらも自分で作った。「ふだんから生徒にすべて任せてくれた。ただ、最低限やるべきことには厳格で、『自律』がないと『自主』は成り立たないと学んだ」と話す。

潜水艦隊司令官の海将、鍛冶雅和（56、76年卒）は、ロシア革命の本やフランスの作家モーパーッサン、日本の古典から太宰治、ベトナム戦争を取材した大森実まで、さまざまな作品を読みあさった。昼休みは角材を削ってバット代わりにした「偽野球」で忙しく、早弁は当たり前。早弁が自由で格好いと思っていた」と笑う。夕方、校内を仲間と裸で走ることもあったが、叱られた記憶はない。「包容力のある田舎チックな自



絵や音楽、読書や描くものも好きだった鍛冶



高校時代、美術選択クラスだった徳丸

由さがあった」
広島・江田島の第一術科学校長の海将補、徳丸伸一（55、77年卒）は、最後の体育祭で応援団の一員だった。その日の打ち上げで騒いで疲れ果て、翌日の授業を欠席しようかと仲間と悪たくみも。「でも、やっぱり学校に行こうと全員で決めた。偉いでしょう」と笑う。「勉強で忙しい時期に、体育祭も一致団結して手を抜かなかった。やる時はやるというメリハリの大切さは、横高で学んだ」と語る。